

～消えた町名～

1960年6月、旧那覇市内の町を泉町、元町、若松町といった7つの町名に編成することが議会で決まりました。しかし、換地計画の承認が民政府から得られなかった関係で実現はしませんでした。

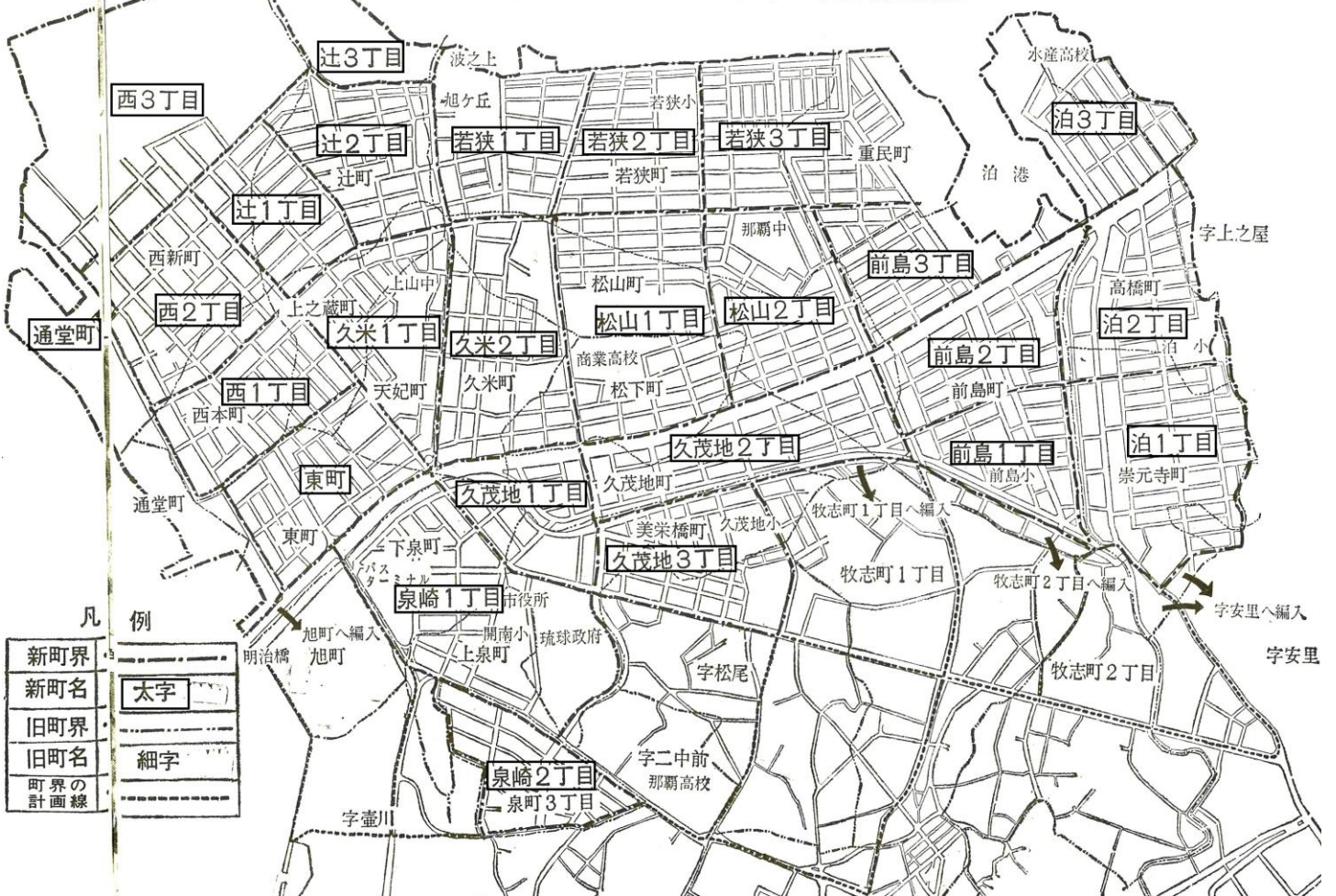
それから10年後、「町界町名地番が非常に混乱し、(中略)業務遂行にも多大の支障をきたしている」ため、区画整理が完了した地域の町名整理案が第119回議会に新たに提出されました。

この議案を付託された総務常任委員会では全会一致で原案が可決され、町名の変更については、美栄橋町には久茂地小があるので「久茂地」へ編入。天妃町は名称の由来からしても復活する根拠がなく、「久米」に包含するのが妥当。松下町は住民も「松山」に含めることに賛成。崇元寺町は由緒ある名称ではあるが、大多数の住民が「泊」にすることに賛成、といった報告がなされました。

従来の町名が消えることに対し、文化を守る会(名渡山愛順代表)からは「町名は絶対に残すべき」との陳情も出されましたが、1970年6月の第121回議会において原案通り可決されました。これにより、旧那覇市内にあった24の町は11の町名に整理され、重民町、下泉町、高橋町等の町名も消えることとなったのです。

那覇市町界町名変更図

那覇都市計画事業戦災復興土地地区画整理那覇第一地区及び美栄橋地区



『市民の友 1971年11月15日』より。一部加筆